

塩の道コミュニティエリア再生事業

取組に至る背景・事業の目的

- 一昨年「塩の道ちょうじや」としてスタートし、「千国街道・塩の道」の文化を紹介する資料館としての役割だけでなく、様々な文化を通じて地域の住民が集い、交流の場の拠点となるべく事業を行ってきた。
- 明治23年に建てられた貴重な建築物である当施設を活用し、昔ながらの「伝統」や「遊び」の継承を通じて、年配の方々と子どもたちの交流や親子のふれあいを深められるような各種イベントを展開し、郷土に伝わる昔の知恵や伝統を学ぶ機会を、地域住民に提供している。

事業内容

- 本事業ではコミュニティスペースを屋外にも拡張し、市民を対象とした各種講座（伝統・木工講座、地元の食材を使った食の講座、文化講座など）を開催したほか、大町で開催される若一王子神社例大祭の前日に親子のふれあいを目的とした「ちょうじや縁日」を開催した。
- 大町周辺は古くから伝わる民話が数多く存在することから、市内で活動している語りのグループ「大町民話の里づくりもんぺの会」のメンバーに協力いただき、民話の地を巡るツアーを開催し、地域に愛着を持っていただく機会を提供した。



【ちょうじや縁日】

事業効果

- 千国街道を運ばれてきた「えご草」を使った料理講座を開催し、新たな食べ方の提案をすることで注目される食材となった。
- 「松崎和紙体験講座」や「民話バスツアー」、「大町民話かるた大会」等も企画し、楽しみながら地元の文化を知っていただく機会へとつながった。
- 講座開催により、観光客にも楽しめる体験メニューができ、家族連れの訪問客に楽しんで頂けるようになった。（木工講座・昔の遊び等）

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 当初の目的であった、「地域や世代を超えた交流の場を創造することで人と文化を育む」という点は、着実に成果が出ていると考えている。今後もこのようなスタイルは続けていくが、一方で、建物も維持継承していかなければならない。今まで以上に多様な企画を実現させ、様々な交流も生み、さらに大町の観光拠点としての役割を担いながら自立を目指したい。
- 当施設は、観光客向けに短時間で大町市を体験できるメニューを揃えた施設として、また、観光客を市街地へ誘導できる拠点施設として定着しつつあるので、今後も様々な講座を開催し、大町独自の文化発信を行いたい。また、地域住民のいきがいの場としても活用できるコミュニティ施設としていきたい。

【選定のポイント】

文化的・歴史的建造物を活用し、世代を超えた地域の交流の場づくりや地域文化の情報発信拠点を積極的に整備し、大町市の交流・観光拠点施設としての役割を着実に発揮しつつある。

団体名 一般社団法人縁家（大町市）	事業タイプ ソフト・ハード事業
連絡先 0261-22-4018	事業費 3,145,395円
メールアドレス shionomichi2572@gmail.com	支援金額 2,153,000円